資料３

立川市第７次生涯学習推進計画令和７年度取組状況の進捗評価表
（令和８年度実施）

１．評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

施策	Ⅰ.いつでも、誰でも学べる身近な学習環境の整備
目的	時間的制約や生活環境の違い、障害の有無、年齢や性別、国籍の違い、経済的格差などにかかわらず、学習権はすべての人に等しく保障されるべきであり、誰もが生涯を通じて学び続けられるように、学習機会の充実に努める必要があります。市民一人ひとりの主体的で自由な自己実現のための学びが、学びあいを通じて地域のつながりをつくり、まちづくり・地域づくりへと展開し、学習と活動の循環をつくりだすことは、生涯学習の重要な役割です。市民の学びあいを通じた交流から生まれる「知縁・学縁」が、地域課題の解決へと発展していくよう、市民と協働し、様々な事業を展開していきます。
達成目標	・市民推進委員会や地域学習館運営協議会、市民リーダー、市内で活動する団体など、市民の立場で学びの企画・運営を担っている方々と連携し、市民が求める多彩な学習機会を創出します。 ・誰もが主体的に学ぶことができる学習機会の提供を、デジタル技術等も活用して進めます。 ・講座などの受講者・学習館利用者同士や、地域の中で活動する様々な団体の担い手など、分野や領域を超えた交流の場を設け、知縁・学縁の形成や学びの場の充実・発展を目指します。
関係する主な事業	●市民交流大学運営事業　●地域学習館講座事業　●青春学級事業　●生涯学習活動推進事業 ●プロジェクト事業　●高齢者対象事業　●学習等供用施設管理運営　●社会教育関係団体登録事業 ●八ヶ岳山荘管理運営
７年度取組状況	・たちかわ市民交流大学講座：587講座3,352回実施、市民参加率：52.8%（令和６年度：535講座、同63.6%） 内訳：市民企画講座　34講座、市民参加率：100%（令和６年度：35講座、同100%） 団体企画型講座24講座、市民参加率：100%（令和６年度：23講座、同95.7%） 行政企画講座　529講座、市民参加率：47.6%（令和６年度：477講座、同59.3%） ・地域活性化講座：開催日数36日、延べ参加者数1,516人（令和６年度：同43日、同1,187人） ・青春学級：登録人数43人、回数日数：56回（令和６年度：同42人、同55回） ・寿教室：９教室、開講日数：322日、延べ参加者数7,200人（令和６年度：同316日、同7,363人） ・高齢者対象事業（寿教室以外）：開催日数３日、延べ参加者数137人（令和６年度：同５日、同207人） ・家庭教育講座：開催日数19日、延べ参加者数382人（令和６年度：同33日、同472人） ・多文化・障害者理解講座：開催日数34日、延べ参加者数469人（令和６年度：同22日、同315人） ・子育て・青少年講座：開催日数14日、延べ参加者数232人（令和６年度：同20日、同278人） ・戦後80年という節目の年を迎え、平和に関する講座や講演会、展示を、市民企画・行政企画ともに実施しました。 ・誰もが参加しやすいよう、265講座でWebを活用した参加者を募集し、また11講座で、Zoomを使用したオンライン配信を行いました。 内訳：平和・人権講座１回、多文化・障害者理解講座４回、市民力向上講座１回、地域活性化講座２回、他課講座３回　（令和６年度：167講座で電子申請、８講座でオンライン配信） ・地域で活動する市民の交流の場として、各地域学習館まつりを開催しました（工事により閉館中であった砂川学習館を除く）。



市民企画講座
「ファシリテーション入門講座」



団体企画型講座
「未来に伝え残したい立川の歴史遺産
－明治時代からの近代化と立川－」



行政企画講座
「SAFって何？天ぷら油で飛行機をとばそう！」

事業の成果・課題 今後の方向性	【成果】 ・たちかわ市民交流大学講座の受講者数の当初目標値は56,000人でしたが、66,882人に受講していただきました。（令和６年度：同70,398人） 内訳：市民企画講座1,736人（令和６年度：1,432人） 団体企画型講座1,621人（令和６年度：1,385人） 行政企画講座63,525人（令和６年度：67,581人） ・平和に関する講座・講演会は、市民の関心が高く延べ699人が参加されました。 ・オンライン配信講座では、延べ75人（接続アカウント数）が受講し、デジタル化への対応が進みました（上記延べ人数に含む）。 ・地域学習館まつりでは延べ5,186人が来館するなど、地域で活動する市民の交流の場となりました。（令和６年度：同5,385人） 【課題】 講座のオンライン配信を進めていますが、オンライン受講より会場での受講の方が人気があり、想定したオンライン受講者数に満たない講座もありました。また、電子申請による申込に対応できない方のために従来の電話受付も並行して行うため、職員の負担が増えました。 【今後の方向性】 引き続き、市民推進委員会や地域学習館運営協議会、市民リーダーや市内で活動する団体など、市民の立場で学びの企画・運営を担っている方々と連携し、市民が求める多彩な学習機会を創出し、デジタル技術等も活用して提供します。また、講座などの受講者・学習館利用者同士、地域の中で活動する様々な団体の担い手など、分野や領域を超えた交流の場を設け、知縁・学縁の形成や学びの場の充実・発展を目指します。

２.生涯学習推進審議会によるコメント

総評	たちかわ市民交流大学講座については、当初の目標値を上回る方々に受講していただけたこと、また、学習館のまつりにも多くの方が参加していることから、学習や交流の場の機会を提供できている点は評価できます。 一方で、オンライン配信を行っている講座が限られており、配信を実施した講座についても参加者数が少ない状況にあるため、今後はアーカイブ配信などを活用し、時間や場所に制約のある方にも学習機会を広げていくことが必要と考えます。また、電子申請への対応が難しい方が申込方法を理由に講座の参加を諦めることのないよう、電話受付も併用するなど、誰もが申し込みやすい環境を整えていただきたいです。行政企画講座の中には、市民が協力している講座もあるため、一括して行政企画講座とするのではなく、市民と行政が協働して実施していることがわかるような示し方を検討していただくことが望まれます。

３．評価

評価		S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	11年度	10年度	9年度	8年度	7年度

立川市第７次生涯学習推進計画令和７年度取組状況の進捗評価表
（令和８年度実施）

１．評価対象となる「具体化の取組」と取組状況・成果

施策	Ⅱ.学びの裾野を広げる学習情報・学習施設の活用
目的	すべての市民が主体的に学ぶためには、自らに適した手段で学習情報を得られること、身近に学習する場があることが重要です。情報格差による不利益や孤立を招くことがないよう、学習情報の提供に取り組みます。また、学びへの関心と意欲を引き出すために、学習相談体制の充実に取り組みます。そして、地域学習館をはじめとした地域の学習施設は社会教育の理念のもと、地域の学びの拠点として、地域学習館運営協議会や利用者、地域団体・組織との協働を進め、学習活動の場を提供すると同時に、地域の中の交流を生みだし、地域活性化に資してきており、改めて市民や関係組織・団体と協議・共有するとともに、求められる役割を十分発揮し有効活用できるよう、取り組みます。
達成目標	・いつでも、どこでも、誰もが必要な情報をわかりやすく入手できるよう、よりよい学習情報の蓄積と提供のあり方について検討し、計画的に実践します。 ・講座等を開催するとともに、学習館等の活用を促すための事業を実施します。 ・施設を適切に維持管理するとともに、必要な工事等を実施し利用者の安全を確保します。
関係する主な事業	●市民交流大学運営事業　●プロジェクト事業　●生涯学習活動推進事業 ●地域学習館運営事業　●地域学習館維持管理　●学習等供用施設管理運営 ●歴史民俗資料館施設管理　●古民家園施設管理　●八ヶ岳山荘管理運営
７年度取組状況	・「広報たちかわ」、情報誌「きらり・たちかわ」、講座ごとに作成するチラシなどの紙媒体のほか、ホームページやＸ（投稿数：センター84件、歴民19件）、ＬＩＮＥ（配信数29件）などのデジタル媒体により講座や催しについての情報提供を行いました。（きらり・たちかわ：年４回発行、各6,000部） ・歴史民俗資料館の展示解説を楽しめるよう、スマートフォンアプリで本市の歴史や文化財に関する情報を提供しました。 ・砂川学習館の建替え工事、こぶし会館の中規模改修工事を実施しました。 ・施設予約システムを更改し、施設使用料の支払いにキャッシュレス決済を導入しました。 ・生涯学習情報コーナー相談件数：308件（令和６年度：同222件） 　内訳：学習相談２件、社会教育関係団体関連116件、生涯学習指導協力者（市民リーダー）関係12件、施設案内61件、その他117件



きらり・たちかわ
講座ガイド





いきいきたちかわ出前
講座紹介冊子



立川市歴史民俗資料館
ガイドアプリ

事業の成果・課題 今後の方向性	【成果】 ・学習館利用者数の当初の目標値は242,000人でしたが、253,344人にご利用いただきました。（令和６年度：同236,408人） ・「きらり・たちかわ」については、講座情報以外の特集記事やイベント記事の充実に努め、多くの方に目にしてもらえるよう、258か所で配布することができました。また、生涯学習推進センター内のX公式アカウントのフォロワー数は202人、歴史民俗資料館のX公式アカウントのフォロワー数は611人となるなど、情報提供の機会が充実しました。（令和６年度フォロワー数：センター121人、歴民560人） ・建替え工事や改修工事により、施設のLED化や居心地のよい空間づくりが進み、市民の学習環境の向上に寄与しました。 ・施設予約システムの更改により利用者の利便性が高まり、個人もシステムを利用できるようになるなど、学習館の活用促進につながり、市民の学習意欲を高めることができました。 【課題】 「きらり・たちかわ」の新規読者の獲得や「生涯学習情報コーナー」については、気軽に利用していただける工夫等の必要性及びSNSを活用した情報発信については認知度をもっと高め、有益なコンテンツや頻度なども勘案して進めていくことが課題となっております。また、老朽化の進む施設が多いため、適切な維持管理や改修工事が必要です。 【今後の方向性】 引き続き、いつでも、どこでも、誰もが必要な情報をわかりやすく入手できるよう、よりよい学習情報の蓄積と提供のあり方について検討し、計画的に実践し、講座等を開催するとともに、学習館等の活用を促すための事業を進めます。また、施設を適切に維持管理するとともに、必要な工事等を実施し、利用者の安全を確保します。

２.生涯学習推進審議会によるコメント

総評	「きらり・たちかわ」の配布場所を拡大するとともに、複数の電子媒体でも情報発信を行っている点は、評価できます。 学習館を利用した方が、今後も来館したいと思っているかなど、利用者の意向を把握することで、学習館が継続的な学びの場として活用されているかを確認できるかと思うので、利用者へのアンケートを実施するなど工夫が求められます。

３．評価

評価		S：予想以上に効果的で優れた取組を行っている A：順調に達成している B：おおむね順調に達成している C：達成見込みであるが一部課題がある D：達成に向け困難な課題がある	過去の評価	11年度	10年度	9年度	8年度	7年度